

平成 24 年度 夢ワカメ・ワークショップ実施報告書

所在地：横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスサキ 202 号

団体名：特定非営利活動法人海辺つくり研究会

代表者：理事長 横 浜 康 継

1. 事業名

1) 活動事業名

第 12 回 夢ワカメワークショップ—横浜港におけるワカメの育成による海域浄化—

2) 活動目的

横浜港海域において、海水の水質を浄化することによって、港湾および海辺に対するイメージアップを図ることは、横浜港の活性化に大きく寄与するものと考えられる。

海水の浄化方法はさまざまなものがあるが、ユニークな手法として、海藻類の利用がある。海藻類は、生長に伴って海水中の窒素やリンを吸収し、海水の富栄養化の防止に効果のあることが知られている。とくにワカメは生長が早いので、それだけ海水の浄化効果が高いことや、他の水産有用生物の滋養効果があることが言われており、各県においても海の森づくり事業などが積極的に推進されている。一方で、広く市県民にその効果や有用性を理解されるまでには至っていないことがほとんどである。

これまで、横浜港において、ワカメを生育し、水質浄化効果の検証を行い、その効果が検証された。これまでの 12 年間で回収したワカメの量は約 6.5 トンにものぼる。事業は子どもたちを含む一般市民の参加により実施され、環境学習面、市民参加の東京湾の浄化、一般市民の環境意識の啓発に効果があることが解り、また水産庁の全国豊かな海づくり大会かながわ大会の行事の一環として実施されたことで、市県民の環境に対する意識を啓発することに効果があることが解った。ここ 3 年間で地元であるみなとみらい地区の住民の参加も徐々に増えつつあり、地元のイベントとしての認知度も高まっている。また地元の参加者の子どもが活動に関する作文で学研賞を取るなどのアワードもあり、子どもが自ら近隣の住民に声をかけ参加を促すなど、活動の拡がりに住民の協力も得られるようになった。

今年度は、さらに地元からの参加者を募り、一層の理解を得ることや、海域の浄化・生物の滋養を促進させること、NGO 団体、地球市民 act との協働で、ミャンマーの山岳民族の子供たちで、ヨード（海藻に多く含まれる成分）不足により、健康被害が出ている人たちに対し、ここで生産されたワカメのうちの一部を、参加者から寄付していただいたものを 5 月までに送る予定である。これは、海外からの食品輸入で日本の循環系に入ってくる栄養を海外へ移転させることにもつながり、環境的にも良好な効果を得られることが期待される。

また、昨年の震災の影響があるにも関わらず、貴重なワカメの種糸を送ってくださった釜石湾漁協の皆さんや、釜石市役所水産課の方を招待し、参加者に対して釜石への支援協

力も依頼した。また、他地域との交流として、横浜と同じくワカメの養殖を行っている富山県氷見海洋科学高校の生徒が見学に訪れ交流を深めた。以上を目的として実施した。

2. 事業内容

(1) 市民団体の連携

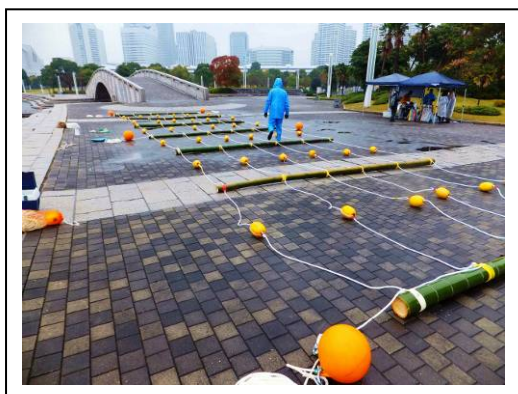
事業を実施するにあたり、市民団体で実行委員会を形成し、事業実施にあたった。参加した市民団体は、(海辺づくり研究会、海をつくる会、水辺を記録する会、カナカナ生物調査会、かわさき・海の市民会議、海の森づくり推進協会、横浜シーフレンズ、磯遊び研究会、よこはま水辺環境研究会、環境技術交流会、金沢八景-東京湾アヲ場再生会議、とどろき水辺の楽校、ともに浜をつくる会、みなとサポート、よここネット、盤州里海の会、地球市民 a c t、よこはまかわを考える会) の 18 団体である。事務局および責任には海辺づくり研究会があたり、実行委員長は海をつくる会の坂本昭夫が担うこととなった。共催として、国土交通省関東地方整備局港湾空港部に入っていたいただき、許認可申請等での協力を頂いた。横浜市港湾局、横浜海上保安部、神奈川県水産課からそれぞれ許認可を頂き、後援を横浜市港湾局、神奈川県水産技術センター、東京湾を良くするために行動する会から受けた。

(2) 許認可申請

事業実施にあたっては、海上保安部への作業許可申請、港湾管理者である横浜市港湾局への水域占用許可申請、神奈川県水産課への漁具敷設許可申請を行った。

(4) ワカメ生育ロープ設置 (11 月 23 日実施)

設置前日に、実験実施場所に仕掛けを下ろした後、ワカメを親縄毎垂下させる。親縄に結束した張り縄を岸壁から垂下させ、それぞれの張り縄の長さを調整して展開させた。





- ・ ワカメを始めとする海藻の役割の学習を行った。(神奈川県水産技術センターの工藤主任研究員から説明) 併せて、地球市民 act がワカメマンショーを行い海外へのワカメの寄附を呼び掛けた。



- ・ マイワカメとするため、プラバンで名札を作成した。



- ・ ワカメの種糸および名札となるプラバンを各自取り付けた。



(5)実施内容の広報

- ・ 実施している内容をパネルにして会場に設置した。



(6)生育ワカメの観察、生育管理（12月24日および1月19日に実施）

栈橋からの張り縄を延ばしつつ、岸壁からの張り縄をたぐり寄せ、親縄を岸壁上に引き揚げて、育成筏の保守を行い、海藻の生育状態を観察する。

1月の点検では、一部サンプルを回収し、放射能の検査を実施し、結果、いずれの項目も定量限界値を下回っていることが分かった。

この様子については、メール通信「ワカメからのメリークリスマス」、「ワカメからの謹賀新年」として参加者に配信した。

ワカメからのメリークリスマス

夢ワカメ・ワークショップ参加者の皆様

皆さんが種系をとりつけたワカメの生長を12月24日に点検してきました。もちろん自然のことですので、大小様々ですが、順調に生育を始めたようです。大きなものでは既に50cm近くにもなっています。一安心といったところでしょうか。でも、自然にさらされているわけですから、これからまだ何かあるかわかりません。大きなものもありますし、小さなものも、大きくなっていないものもあります。小さなものはこれから大きくなるかもしれませんし、大きなものは脱落して落ちてしまうかもしれません。まだまだ安心はできません。それでも確実にみなさんのワカメが東京湾をきれいにしようと頑張ってくれています。期待半分、心配半分でワカメのことや海のことを考えてくださったら、主催者としてもうれしいかぎりです。(育たなかった人には予備をお分けしますのでご安心ください。)

今回は、1月20日9:00から点検を行いますので、その際は、また新年の報告させていただきます。それでは、良いクリスマスと良いお年をお迎えください。

夢ワカメ・ワークショップ実行委員会 拝

*申し込み代表者の方は、恐縮ですが、お仲間の方に転送していただけるとありがたいです。



ワカメからの謹賀新年 大きくなりましたよ！

夢ワカメ・ワークショップ参加者の皆様

皆さんが種糸をとりつけたワカメの生長を1月19日に第2回の点検をしました。順調に生育し、大きなものでは既に2m以上にもなっています。もちろん、大きさにはそれぞれ差がありますし、自然にさらされているわけですから、これからまだ何があるかわかりません。大きくなりすぎて脱落することもあるかもしれません。それでも生長を期待しててくださいね。予備も作っていますのでご安心ください。

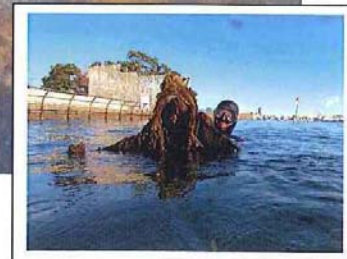
回収まで残り10日となりました。

2月9日（土）は、10：00に集合です。

寒いですから、くれぐれも暖かい格好でお越しください。当日はワカメのお味噌汁やラーメンも配布します。皆さんの元気な顔を見るのを楽しみにしています。

持ち物：自分の参加番号を書いた紙、お弁当、飲み物、お椀、おはし、ワカメ持ち帰り用大ビニール袋（一番大きな厚手のゴミ袋サイズがいいです。）、筆記具

夢ワカメ・ワークショップ実行委員会 拝



(7)生育ワカメの撤去回収（2月9日実施）

護岸に係留している張り縄を外し、岸壁に係留している張り縄をたぐり寄せ、親縄をはじめとする全施設を岸壁上に引き揚げた。

- ・ 個別にワカメの重量を計測し、全員の合計重量から、窒素およびリンの回収量を計算し、海をどれくらいきれいにしたかを全員で確認した。結果、回収総重量 1075.6kg、乾燥重量 77.4kg、総炭素量 19.7kg、総窒素量 2.5kg、総リン量 0.7kg となり、大人 4 人が 1 年間に生活から排出する量を回収したことになる。
- ・ 併せてワカメの味噌汁大会および、地球市民 a c t からタイラーメンの試食を行った。
- ・ アンケート調査も実施した。





どれくらい横浜港をきれいにしたか

班番号	ワカメの重さ(kg)
1	68.50
2	73.00
3	53.00
4	69.50
5	62.00
6	53.00
7	45.80
8	83.70
9	61.70
10	68.10
11	74.70
12	82.50
その他	280.40
	合 計 1075.90

乾燥重量	(合計 * 0.072)	77.465
総炭素量	(乾燥重量 × 254 ÷ 1000)	19.676
総窒素量	(乾燥重量 × 31.8 ÷ 1000)	2.463
総リン量	(乾燥重量 × 9.6 ÷ 1000)	0.744

3. 活動事業場所および時期

(1) 活動場所

- ① 神奈川県横浜市西区みなとみらい 臨港パーク前面水域（下図参照）



(2) 活動時期および日程

平成 24 年 7 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日（全体工程）

平成 24 年 11 月 23 日 設置

平成 24 年 12 月 24 日 観察・点検

平成 25 年 1 月 19 日 観察・点検

平成 25 年 2 月 9 日 観察・回収・施設撤去

4. 参加者の構成

延 600 名（一般参加者 252 名 内子ども 133 名+スタッフ 59 名（設置と回収で差異） ×
2 回）

5. その他

(1) 活動参加者の募集方法

ホームページおよび実行委員会参加者・前回参加者の口コミによる募集を行った。

併せて、神奈川県および横浜市から、各小学校への募集チラシ配布などの方法で募集を行った。結果、全 252 名枠が 3 日間で埋まった。(下記・別紙)

ワカメ育成イベント内容

- ① 種付け：11月23日に参加者の皆さんの手で、わかめの種付け体験（種糸の取り付け）をしていただきます。
ワカメを設置するイカダは、5m×20m（親縄 20m×6本）の大きさです。
そこに、皆さんで作ったプラバンとともに、ワカメの種糸を挟み込んでいただき、ワカメの生長を2月まで待ちます。
また、海藻の機能や役割、水質浄化機能やわかめの育成方法について勉強します。
- ② 収穫：2月9日には、参加者の皆さんが自らの手でワカメを収穫するとともに、収穫したワカメを味わっていただきます。
- ③ 収穫までの間に、海の水質や底質、生物などについての体験学習会も行います。
体験学習会では、タッチングプール、ワカメの味噌汁大会などを行います。
- ④ 終了後は、皆さんの体験で感じたことや学んだことを、絵や感想文でまとめていただきます。

日 程	11月に皆さんの手で種付けをし、2月に皆さんが直接ワカメを収穫します。 種付：11月23日（横浜市西区みなとみらい臨港パーク内潮入の池） 集合時間 13:00 終了時間 16:00 収穫：2月9日（横浜市西区みなとみらい臨港パーク内潮入の池）
集合場所	横浜市西区みなとみらい地区臨港パーク内潮入の池
参 加 費	御家族や友人、グループで御参加ください。 参加費は無料です。（材料費、保険料、資料代は主催者が負担します。） ＊交通費等は、別途本人の負担となります。
申し込み期間	平成24年10月1日～平成24年10月31日（但し；定員240名に達した時点で締め切りといたします。）必ず事前にお申し込みください。
申し込み方法 <u>必須</u>	FAX もしくは E-mail にて、「夢ワカメ・ワークショップ」参加希望と書き、参加者全員の、①氏名（必須）、②年齢、③住所（必須）、④連絡先電話番号（必須）、⑤連絡先FAX番号（必須）、⑥メールをお持ちの方はE-mailアドレス、を明記の上、イベント窓口までお申込ください。（先着順）
問い合わせ 申し込み先	NPO 法人 海辺つくり研究会 事務局 住所：〒220-0023 横浜市西区平沼 2-4-22 ジュネスサキ 202号 電話番号：045-321-8601 FAX 番号：045-317-9072 E-mail：umibeken@nifty.com

（２）活動の安全確保等に関する指導

釜石での海域での体験活動を実施する子どもたちにはライフジャケットやウェットスーツなどを装備させるとともに、緊急用のダイバーの配備を行った。

また、活動前に保険加入（傷害保険・損害賠償責任保険）を行った。

（３）活動終了後の活用方法等

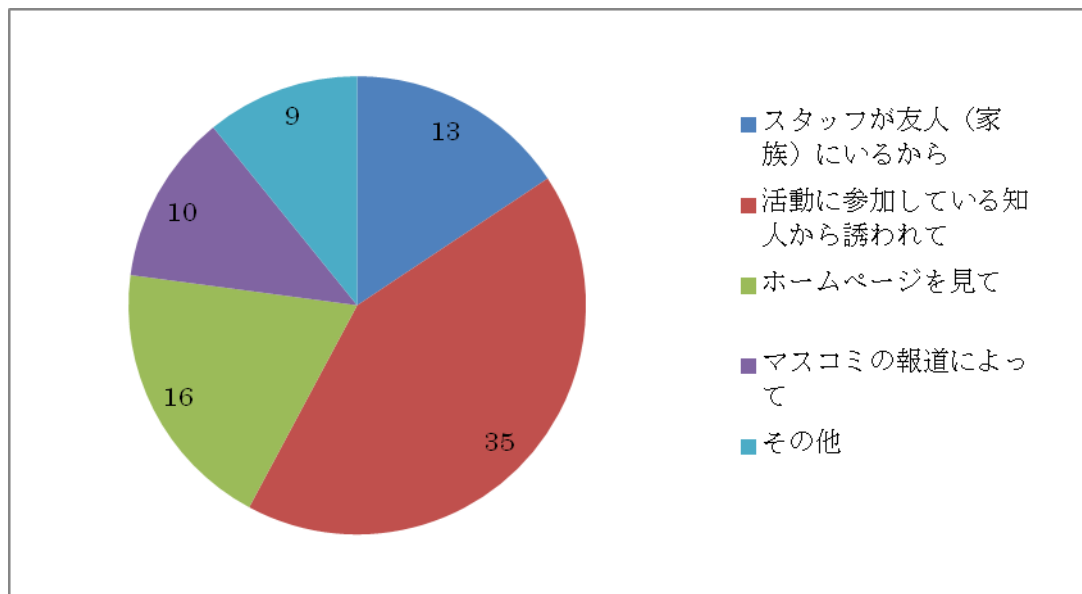
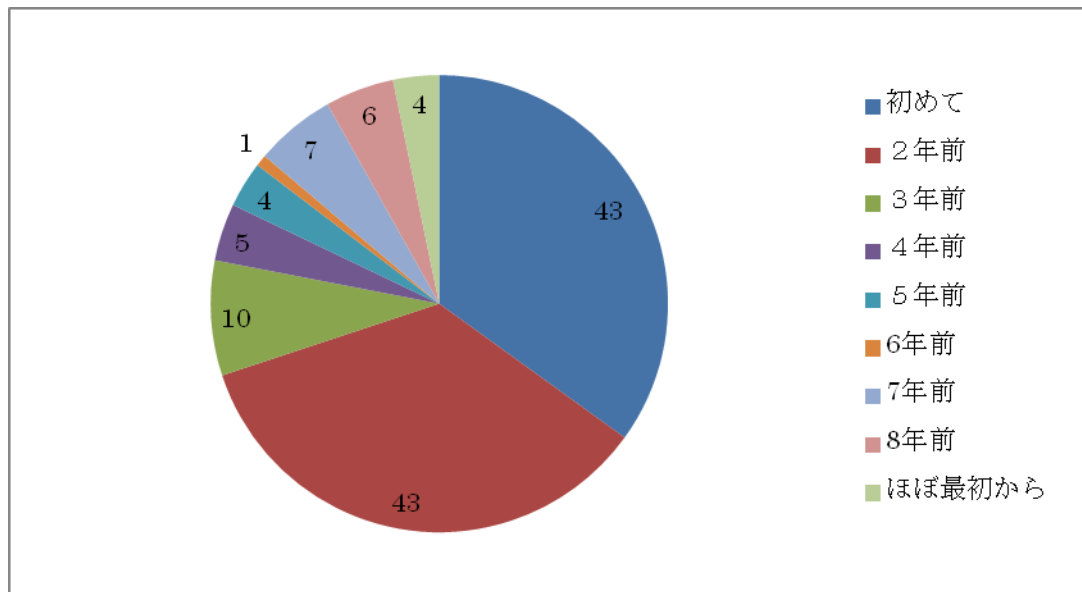
岩手県釜石湾漁業協働組合との交流事業として、また横浜市漁業協同組合や横須賀市東部漁業協同組合の協力も頂きながら一般市民と漁業者の交流を継続させており、今回も協力を得ながらの実施となった。

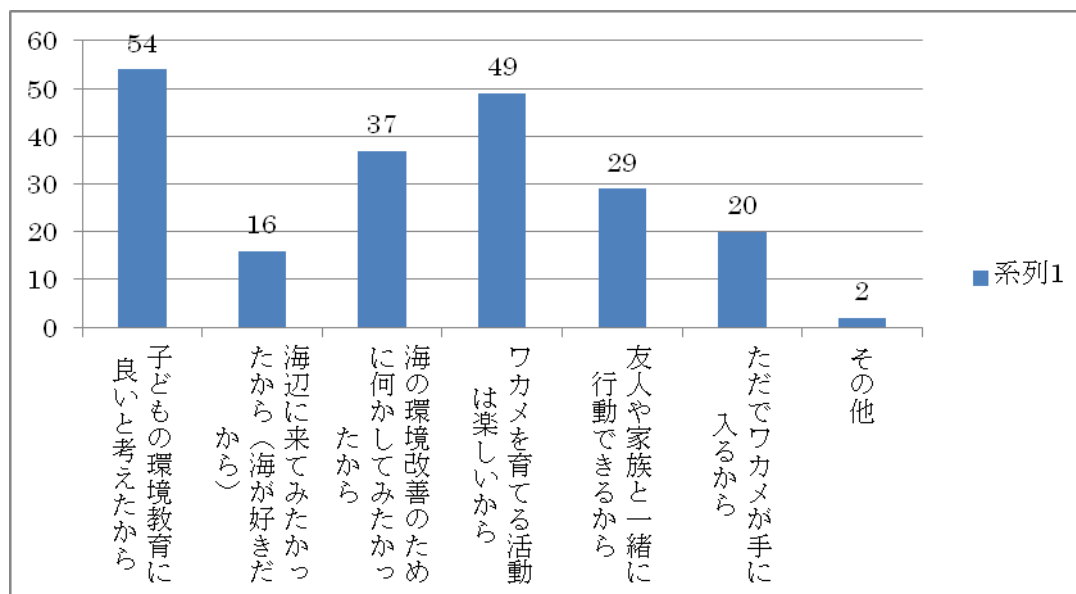
（４）海外へのワカメの寄附

NGO 団体、地球市民 act との協働で、ミャンマーの山岳民族の子供たちで、ヨード（海藻に多く含まれる成分）不足により、健康被害が出ている人たちに対し、ここで生産されたワカメのうちの一部を、参加者から寄付していただき、3月から5月に送る予定である。これは、海外からの食品輸入で日本の循環系に入ってくる栄養を海外へ移転させることにもつながり、環境的にも良好な効果を得られることが期待される。

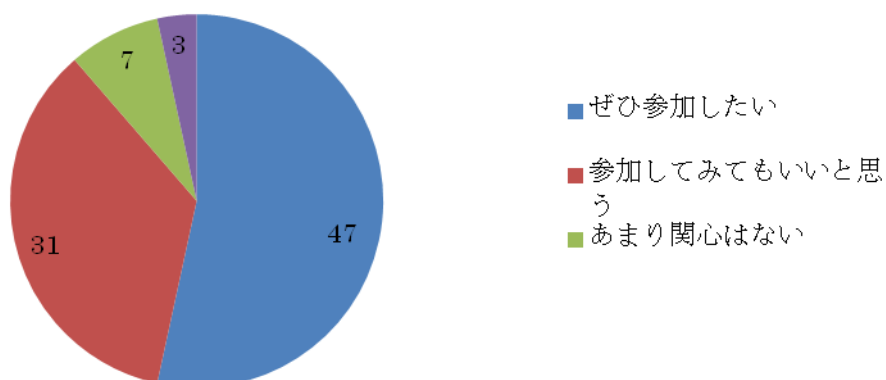


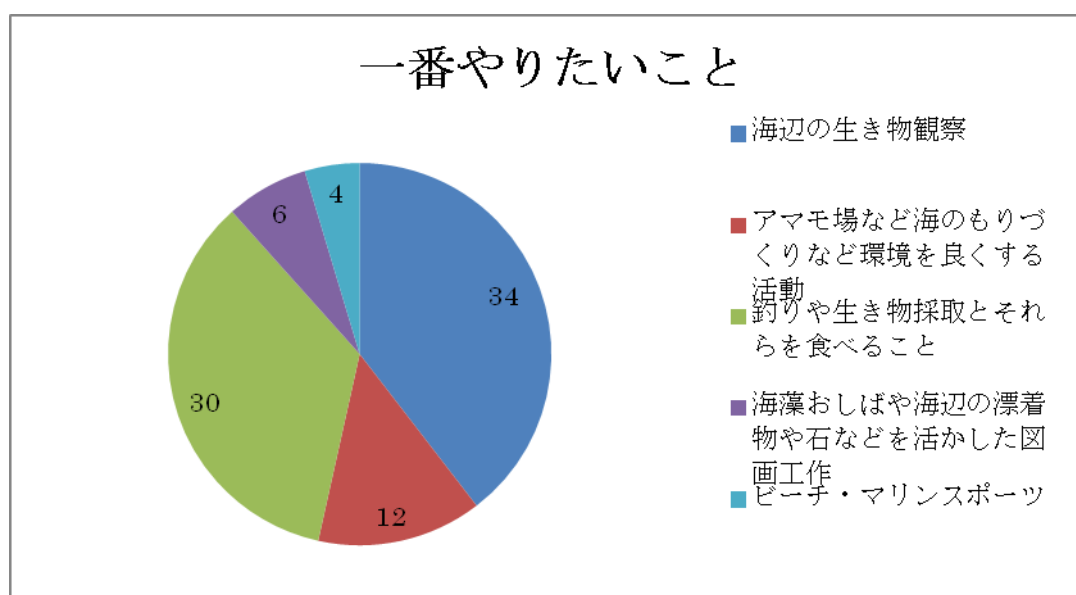
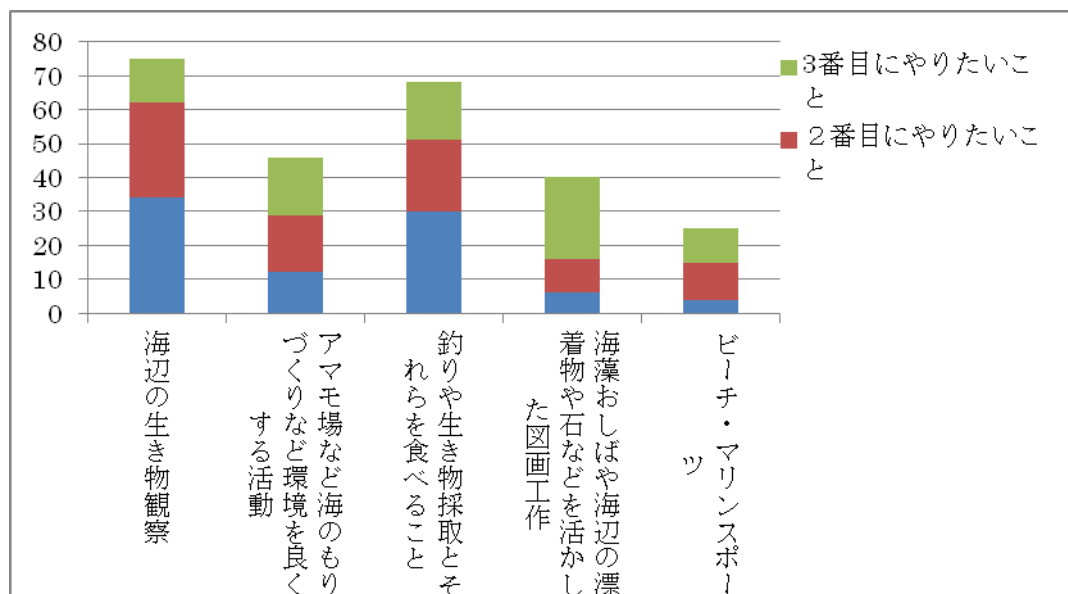
アンケート結果



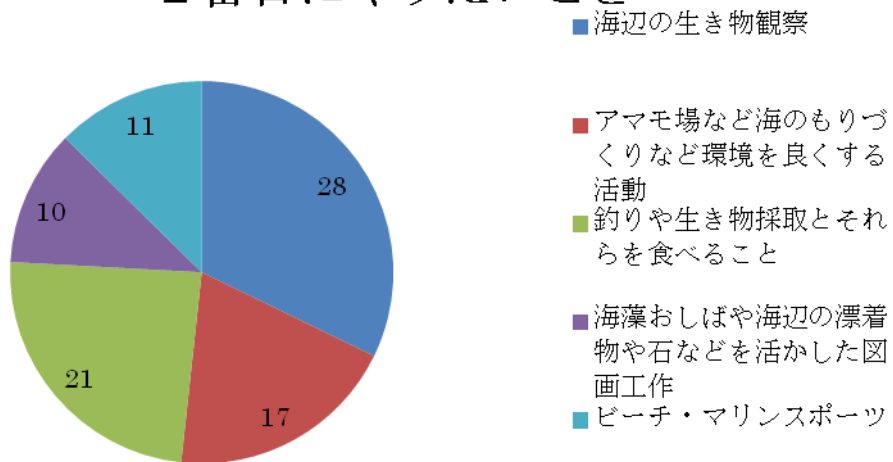


ワカメを利用した料理教室開催を検討していますが、教室を開いた場合参加したいと考えますか？

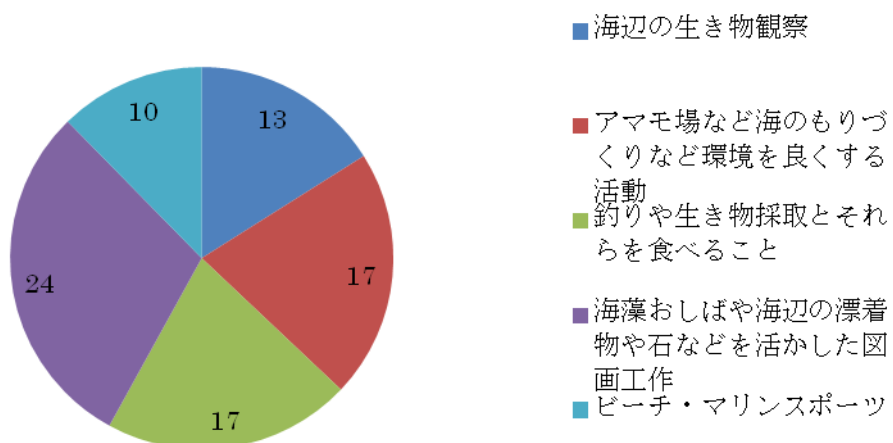


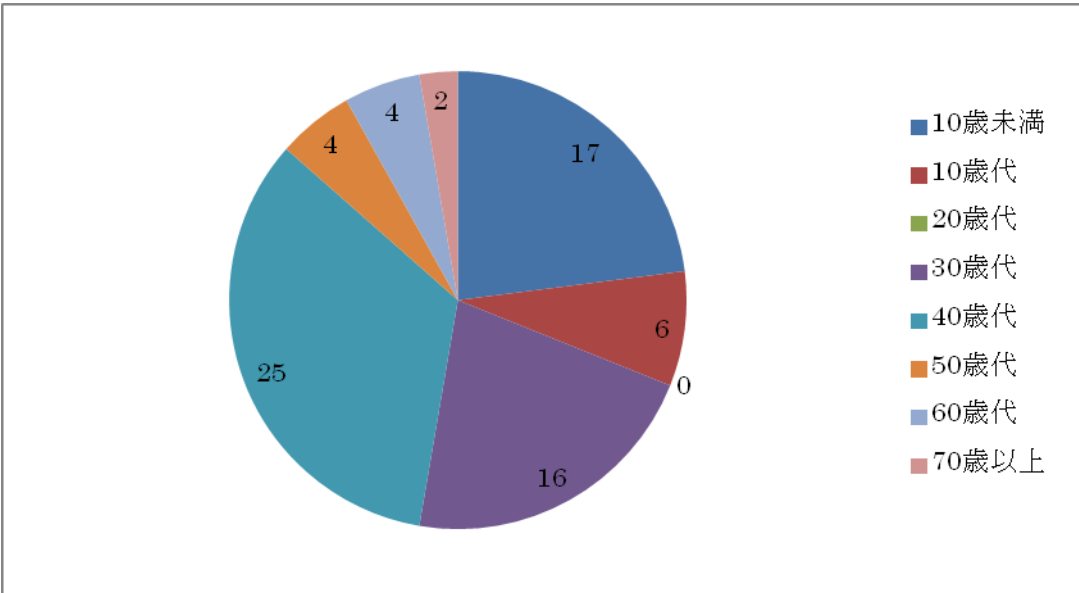
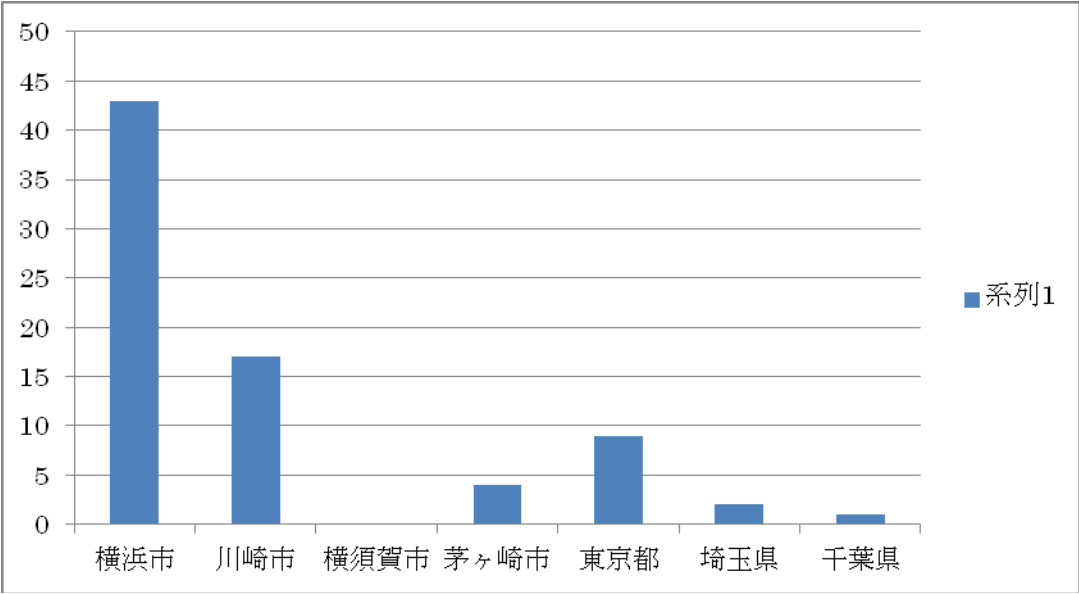


2 番目にやりたいこと



3 番目にやりたいこと





釜石のワカメ大豊作

臨港パークで、12年目の「夢ワカメ」



海から引き揚げたワカメの大きさに、参加者からは歓声があがった＝横浜市西区

横浜市西区みなとみらいの臨港パークで9日、ワカメの収穫作業があった。目の前に広がる東京湾の美化を目的にNPO法人と市民団体が続けている「夢ワカメ・ワークショップ」の活動で、今年で12年目。海から引き揚げた大きなワカメに、参加者の子どもたちからは大きな歓声があがった。ワカメは昨年11月下旬、

沖に組んだいかだに種付けをした。ワカメの種は、活動が始まった当初から岩手県釜石市から届けられていた。東日本大震災後も途切れることなく種が届き、横浜と被災地をつないでいる。この日は釜石市役所の菊池行夫さん(59)も収穫作業に駆けつけた。「震災後はワカメの種が少なくなりましたが、横浜の子どもたちが楽しみにしてくれるのがうれしくて届け続けている」と話した。ワークショップを開くNPO法人「海辺つくり研究会」事務局長の木村尚さん(56)によると、ワカメは赤潮発生の原因になる窒素やリンを栄養素として育つため、水質浄化につながるという。収穫されたワカメは700kg以上で、約250人の参加者が持ち帰った。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

「やっぱりわかめだ」

清水心愛（小学校２年生）

わたしには、三才からつづけている活どうがあります。それはゆめわかめワークショップという、りんこうパークの海にわかめのたねつけをしてそだてる活どうです。

十一月にわかめのなえをロープにからめて、ダイバーさんに海にうかべていただきます。そして二月にしゅうかくします。

なえは、地しんでひがいのあったかま石から毎年おくっていただいています。

きょ年、ゆめわかめはなえがなくてできないと思っていました。でも、かま石の方ががんばってなえをおくってくださって、できることになったと聞いてびっくりしました。かんしゃとおうえんの気持ちでいっぱいになりました。

毎年、しゅうかくしたわかめは、めかぶは細かくきざんでなつとうと一しょにいただきます。くきは、つくだににします。はは、ポンズをかけて食べるのが一番すきです。茶色いわかめがゆがくときれいなみどり色になるのがおも白いです。たまに小さいりゅうのような生きものがついてたりするのをさがすのも楽しいです。そして、わかめマンというお兄さんにあそんでいただくのが楽しくて、また来年も行きたいという気持ちになってしまいました。

でも、そのゆめわかめは、楽しむだけではありません。海をきれいにするために、多すぎるリンやちっそをえいようにしてそだつわかめをそだてるという目てきでやっているのです。ゆめわかめのはじめに、毎年、そのお話をしてくださるので、わたしはいつのまにかおぼえました。

何年目かに、ゆめわかめの木村さんという方がテレビのダッシュ海がんにでられるようになりました。わかめをめかぶから出たほうしからそだてたりするのを見て、どんどんわかめに、きょうみがわいてきました。

そして、今年の夏は、中ぶ水さい生センターの見学や、まだいのちぎょほうりゅうなどにも行きました。

中ぶ水さい生センターでは、下水をちんでんさせたり、プランクトンをつかって水をきれいにしているそうです。１パーセントだけリンとちっそがのこりますが、９９パーセントきれいにした水を川や海にながしていると教えていただきました。その時、

「やっぱりわかめだ。」

と思いました。

「きれいにできなかったのこりのリンとちっそを、わかめがきれいにしてるんだ。」

と、思いながら、

「それにしてもよこはまの海は、きたなすぎるな。」

と思いました。

わたしは、海の近くにすんでいます、海の色は、ハワイとかの海の色とちがって茶色やグレーで、たまに、海からとてもくさいにおいがしてきます。

「なぜ、きれいにした水をながしているのに、よこはまの海は、きたないし、くさいんですか。」

と水さい生センターの方にしつもんしてみました。

「東京わんは、せまいわんだからプランクトンが一かしょにかたまってたくさんになってしまうから、赤しおがはっ生してしまうんですよ。」

と、教えていただきました。

あとで読んだ本には、東京わんのまわりには、人が多くすみすぎていることや、田んぼやはたけにまいたひりょうが雨などで川へながれこんだりするのもリンとちっそがふえる原いんだと書いてありました。

まだいのち魚ほうりゅうでは、5 c mにそだった魚を海にほうりゅうしました。

自ぜんにたまごからだ、10パーセント、5 c mにそだった魚だと、70パーセントが大人の魚になるそうです。大きな魚に食べられることもあります、赤しおが原いんでしんでしまうこともあると教えていただきました。

ここでも、

「やっぱりわかめだ。」

と思いました。

そして、さい近のニュースで、東京わんのまはぜがたいりょうしというのがありました。海のそこにいるはずのまはぜがさんそがなくなってしまつて海めんでパクパクと口をあけたり、しんだりしていたと記じに書いていました。

「やっぱりわかめだ。」

わかめは、さんそも出してくれます。

なみもないしずかに見える東京わんの海の中は、たいへんなことになっているんだと思いました。そして、今までと海を見る目がかわりました。

「やっぱりわかめだ。みんなに知ってほしい。よこはまの海をきれいにするために、友だちにも手つだってほしい。」

と、と思いました。

プランクトンは、リンやちっそがえいようでふえる。

魚は、プランクトンを食べて大きくなる。

でも、プランクトンはリンやちっそが多すぎると、ふえすぎて赤しおがはっ生する。

プランクトンがふえすぎると、さんそがなくなってしんでしまつて青しおになる。

赤しおや青しおになると、魚もさんそがなくなってしんでしまう。

自ぜんって、色いろなかんけいがあって、少しのことでたいへんなことになったりするし、むずかしいんだと思いました。

海だけでなく、みずうみでは、さんそがなくなるとアオコがはっ生するのがもんだいになると聞きました。

お母さんが生まれたしがけんでは、みずうみをきれいにするために、リンがない石けんをつかう活どうをはじめにしたそうです。ゆめわかめと同じように、よしをうえる活どうを小学生がしているのも聞きました。

お母さんがりょ行でさがみこに行った時、アオコがはっ生すると、水道水によくないので、エアレーションというそうちで上と下の水を入れかえてさんそが水の中にもいくようにしていると聞いたそうです。

「どんな自ぜんをまもるのもたいへんなんだな。」

と、思いました。

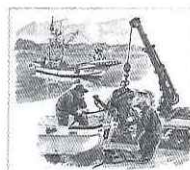
はじめは、何もわからずにお母さんにつれられて行っていました。お母さんも、親子で一しょにほうし活どうをする目てきで行ってみようと思ったただけだと言っていました。

でも、今、わたしは、どうしても、よこはまの海をきれいにしたいと思うようになりました。でも、まだ二年生なので、何もわかりません。わたしが今できることは、お友だちにつたえることしかないです。

今年も、十一月にりんこうパークでわかめのたねつけ、二月にしゅうかくがあります。

お母さんとわたしで、学校、ようち園、マンションや近じょのお友だちに声をかけて、三十四人のお友だちをさそいました。

ゆめわかめの日に、わたしから、なぜ、海にわかめをそだてるのかせつ明しようと思っています。そして、たくさんの人に海をきれいにしようという気持ちをもってほしいと思います。



みちのくの技をつなぐ職人たち

岩手県釜石市
水野 あきら

釜石湾漁協の佐々秀さんに話を伺った。

同漁協に所属する船のうち、避難して無事だったのはわずかに八艘。修理できたのは八〇艘ほどで、三〇〇艘以上がガレキと化した。国と地方が費用の九分の八を負担して二一〇艘の船が新たに発注されたが、すぐに必要数が揃うはずもなく、現在稼働している新造船は五〇艘ほど。やむなく一艘の船を何人かの漁師が共同で使用し、養殖棚



スラスター
アワビ、ウニ漁で
船を前後左右に
細かく動かすための
電動の補助機。

の設置や水揚げが行われている。

しかし、漁師は自分の腕一本で稼ぐ商売。天然アワビ漁では、なおさら腕の良し悪しで稼ぎに差が出る。従って、共同で作業し、利益を分け合うというやり方を漁師たちは嫌う。そこで漁協では、彼ら一人ひとりの震災前の実績に応じて利益配分に差をつけているという。だが、その彼らも高齢化し、夫婦で海に出るやり方では、いくら腕が良くてもどちらかが倒れば仕事は立ち行かなくなる。家族単位で漁を続けるのは難しい。漁協は、現場が受け入れられるような新たな作業の共同化、効率化を模索しなくてはならない。でないと、若手の参入を促すこともままならない。

ともあれ、昨年末の天然アワビ漁、この三月からの養殖ワカメの水揚げともに順調で、津波被害による収穫量の落ち込みは予想より少なかったそうだ。

現場の人々も、自然も、復旧に向けて着実に進んでいる。行政の対応だけが後手に回っている。



みちのくの技をつなぐ職人たち

漁船修理、艤装

岩手県釜石市の中心部から車で三〇分ほど走った釜石湾の南端に、尾崎白浜漁港はある。湾内で天然アワビ漁、ホタテ、ワカメ、ホヤの養殖に従事する漁師たちの基地となっている小さな港だ。

釜石湾漁協白浜浦支所青年部の佐々木康博さんは、〈あの日〉、揺れが収まるとすぐに水門を閉め、高台に避難した。だが、仲間のひとりが海に出ていると知らされる。水門を開けに行けば自分も津波に吞まれるかもしれない。一瞬迷ったものの、消防団員でもある彼は仲間二人と港に急行した。幸運にも、水門を開けたところにその船が入ってくる。再び閉めて逃げ戻ると同時に、第一波が襲ってきた。二波、三波と続く巨大な波は、彼の家も車も容赦なく吞み込み、押し潰していった。

メーカーから届いた船体に、漁師たちの要望に従って艤装を施し、船外機を装着して海へと送り出す。



艤装作業中の佐々木康博さん



「停電したんで、懐中電灯だけ持って逃げたけど、サイフも家も車もみんな流された。でも、家族は奇跡的に全員無事で...」

「いやあ、とにかく音が凄かった。生木が裂かれるバキバキーツという音、家が潰れる音。光景も凄かったけど、俺にはあの音の方が...」

その後、佐々木さんは、被災した船の修理や新造船の艤装作業に携わる。作業を主導するのは、バイク、船外機、小型船の修理、販売業四〇年のベテラン前川良三さん。彼の店も被災したため、白浜港棧橋にある漁協倉庫を修復して臨時の作業場に、足りない人手を佐々木さんたち五人ほどが補って、船を海に送り出しているのだ。

表紙画は、船外機装着作業中の前川さん(右)と、艤装を終えた新船。この港で使用される船の多くは、外海に出て魚を追う漁船とは異なり、排水量一トンに満たないFRP(繊維強化プラスチック)製の小型船だ。

(続きは三ページ)

毎年恒例！ワカメ SHOW ♪

毎年恒例、みなとみらいでワカメを育て、日本とアジアの子ども達が環境、栄養について相互に学び合う「夢ワカメワークショップ」が開催されました。今年は水温の上昇など問題はありませんでしたが釜石からワカメの種が届き、150 人の子ども達と種付けしてきました。

もちろん TPAK ワカメSHOW ♪ も大人気！今年は仕事？の都合でワカメマン不在の中、友達のコンプマンがピンチヒッターで



登場！ワカメガールズと共に怪獣「ヨード嫌いだゴン」を倒し、平和を守りました。子どもも大人も大爆笑！寒さを吹き飛ばしてくれました。一番頑張って子ども達にヨードの大切さを話したのは怪獣「ヨード嫌いだゴン」でした(笑)

そして冷えた体にはホットココアとチョコバナナ！大人にも大人気でした。ボランティアの皆さん、寒い中ご協力ありがとうございました。収穫は2月9日(土)です。楽しいイベントです。ボランティア募集中ですのでぜひご参加ください！

その他

- ・ FM横浜、J-WAVE、朝日新聞、神奈川新聞で放送あるいは掲載された。

活動団体概要について

事務局団体の概要は、以下のとおりです。

1. 団体設立年月日：平成 13 年 5 月 1 日設立

平成 14 年 5 月 16 日 NPO 認証

平成 14 年 6 月 5 日 NPO 法人登記

2. 設立目的：

沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺づくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的とする。

3. 活動概要：上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 調査研究・研究開発

ア 海辺づくりに関する情報の収集、公開、および情報データベースの構築、公開

イ 海辺環境のモニタリング、調査研究、計画、評価およびその情報公開

ウ 海辺環境の保全・再生・創出技術の開発と普及

② 行政と市民のインタープリターとしての活動

ア 海辺づくりに関する政策の立案協力・提言

イ 行政と市民のインタープリターとしての専門家の派遣協力

ウ 情報共有のためのツールの提供

③ 人材育成・普及啓発

ア 海辺づくりに関する研究交流会や市民、子供向け環境教育イベントの開催

イ 海辺環境の保全・再生・創出に関する国際協力および国内各地域との連携の推進

ウ ホームページによる情報公開

エ シンポジウム・セミナーの開催

オ 事業成果の出版、販売

(2) 収益事業

① 沿岸域環境の保全・再生・創出に関わる調査・設計・施工

② 沿岸域環境調査・アセスメント調査の受託

③ 沿岸域環境創出関連製品・施設・設備の販売

④ 沿岸域環境保全意識啓発関連製品の販売

4. 連絡先（団体事務局）

所在地：〒220-0023

横浜市西区平沼2-4-22 ジュネスササキ 202 号

団体名：特定非営利活動法人 海辺つくり研究会

代表者：理事長 横浜康継

電話番号：045-321-8601

FAX 番号：045-317-9072

担当者名：木村尚（きむらたかし）

担当者連絡先

電話番号：045-321-8601

FAX 番号：045-317-9072

E-mail：umibeken@nifty.com

以上